

食材の値上がりが気になるこの頃。
旬の野菜や身近な食材を上手に組み合わせて、
身体を温めながら、元気に冬を迎えましょう

DENKEN
発行 / 株式会社　電建
〒660-0805
兵庫県尼崎市西長洲町1丁目2-45
TEL：06−6489−2222
FAX：06−6489−2223
WEB：http://m-denken.com

With your company
でんけん倶楽部 NEWS

2026.11 第 146 刊

社長の独り言

松本 晃幸



咲いた桜の花見て喜ぶならば、咲かせた根元の恩を知れ

仏教の教えでもある、表題の言葉を知ってから感謝の仕方を改善しています。例えば素晴らしい方と出会い素晴らしい学びを得た時、その人にはすぐに感謝できますが、その方をご紹介いただいた方、その方の人格に至るまでに起きた出来事、それにまつわる方にはなかなか思いがいかないものです。自分の事も今があるのは支えてくれた先輩、友人、家族、厳しく接してくれた先生、何よりも自分をこの世に生んでくれた父と母、そしてその愛のおかげ、ご先祖様がいてくださったから。

何かが成功した時も、多くの場合、自分の力と錯覚しそうになりますが、その時も、ここまで生きてきたすべての人と物にも感謝すること、そして最も感謝すべきはやはり、両親であると断言できるようになりました。

最近、記憶とは自分が作っているという事を学びました。

例えば、「私は幼いころ、親からこんなひどい目に遭わされた」というものも実は自分で作った記憶に過ぎません。しかもそれが、人生とは苦しく辛いものだと自分が思い込む理由になっていたりします。つまり、前記の事を別の人は「すごく愛されたので、将来の為にすごく厳しく育ててくれた、感謝しています」という人もいます。

どちらがその後、幸せな人生を生きるのか、考えるまでもなく、両親に愛されたと思っている人でしょう。

つまり幸せの記憶にするのか、不幸の記憶にするのかは、本人次第。人は過去の記憶と未来の希望から今日を作るので、先ずは、自分への承認も含む両親から愛されたと心から思っている人から、幸せになっていくのだそうです。



今月の工事あらかると

工事部 國重 幸太郎

商店街でのトランス撤去工事！

今回は、建物の低圧受電化に伴い、不要となったキュービクル内部のトランスを撤去する工事を行いました。

現場は商店街の中にあり、日中は多くの方が通行されるため、周辺環境や近隣への影響を考慮し、夜間に作業を実施しました。また、事前に周辺の居住状況なども確認し、作業環境を整えています。

本工事では13ｔクレーン車を使用しましたが、商店街という立地もあり、クレーン車の進入から機器の吊り上げまで、慎重な対応が必要な現場でした。

作業は約2時間ほどで無事に完了。撤去したトランスについても、適正な処分を行いました。

難しい条件下での現場でしたが、事前の段取りと現場での連携により、無事に工事を終えることができました。お客様には今後も安心して電気をお使い頂けます。



電建diary

工事事務 中安 春奈

夢の家

10月某日、花博記念公園にて開催された「夢の家お仕事体験フェスティバル」へ行ってきました！

弊社のブースは、イルミネーション！工事に使用するものを用いて、イルミネーションの土台を作りました。

電気がどのように皆の家に来ているかを説明した後、差し込み型コネクタという電線と電線を繋ぐブロックのようなものに電線をはめ込みます。これが中々固いので、小さなお子様には親御様がついて、一緒にやっていただきました。参加者全員の作業が完了したら、次は飾りつけ。子どもたちは楽しそうに飾り付けしてくれました。

そして、部屋の電気を全部消して、ついに順番に点灯です。ブレーカーを上げ、子どもたちにスイッチを押してもらうと…イルミネーションが点灯！暗い部屋にキラキラとした光が灯りました。歓声が上がり、場の雰囲気が明るくなりました。写真タイムでは、親御さんとお子さんの微笑ましい姿が沢山見え、今日の夢の家での経験が、ずっと思い出として残ってくれていたら嬉しいです。

その後は、災害時で使えるペットボトルランタンを説明し、「子ども電気工事士認定証」の賞状を渡し、感想を言ってもらい終了。子ども達の「たのしかった」「電気がついて嬉しかった」等、素直な感想が身に沁みました。私自身も、このイベントに参加したことで、改めて電気の有難みを感じることができました。



経営理念

夢への挑戦

私達は電気工事を通じて日本経済の発展を支え
関わる全ての人々の愛が溢れる社会を実現します

会社概要

社　　名	株式会社電建
所 在 地	〒660-0805　尼崎市西長洲町１丁目 2-45
T　E　L	06-6489-2222
F　A　X	06-6489-2223
E-mail	info@m-denken.com
U　R　L	https://www.m-denken.com
事業内容	電気設備工事、空調・換気設備、通信関連設備 防犯・防災設備、その他電気機器販売

配信停止 QR
電建 HP
高圧専用サイト
でんけん YouTube チャンネル
電建 LINE 公式アカウント
でんけん TikTok
でんけん Instagram

知っトク情報



工事部
佐藤 友裕

省エネ補助金の対象拡大

10月5日の日経新聞に、工場の省エネ設備導入に対する補助対象を拡大するという記事が掲載されていました。今回の拡大では、高性能ヒートポンプの新設も支援対象に加わるとのことです。つまり、これまで更新が中心だった空調設備についても、新たに設置する場合に補助金を活用できるようになります。

詳しい内容をメーカーに確認したところ、補助率は以下のとおりです。

・新設：トップ性能の機器が対象で、機器費の1／5を補助
・更新：機器費の1／3を補助（トップ性能の機器なら1／2を補助）

トップ性能の機器は、一般的な機器に比べて導入費用が高くなります。しかし、補助金を活用することで、その価格差を抑えながら高性能な設備を導入できます。さらに、設置後も消費電力を抑えられるため、毎月の電気代削減にもつながります。

弊社では、現地調査から経済比較、見積り、施工、補助金申請のサポートまで一貫して対応いたします。この補助金は来年度も公募が予定されていますので、空調設備の新設や更新を検討されている方は、今から準備を進めてみてはいかがでしょうか。



お客様紹介



工事部
佐藤 友裕

株式会社ムラタ様

株式会社ムラタ様は日本の製造業やめっき産業の発展を支え続けてきた総合メーカーです。金属表面処理剤から研磨剤、自動車補修ケミカル、精密装置など幅広い分野で事業を展開されています。

弊社とは、平成12年の工場増築時からのお付き合いで、長年にわたり電気工事を通じて関係を築いてまいりました。

担当者様からは「重要な電気設備は電建さんに」と言っていただいており、弊社を信頼し、頼りにしてくださっていることを社員一同とても嬉しく感じています。

また、弊社ホームページの「お客様の声」でも、担当者様に弊社との関係についてお話しいただいておりますので、ぜひご覧下さい。

「事後保全」から「予防保全」への切り替えに注力されているムラタ様。品質と技術で、人と社会と地球に貢献したいという経営理念は、弊社とも通ずるところがあります。その取り組みを支えるため、電気工事のパートナーとして、安心・安全な設備環境づくりに貢献してまいります！

株式会社ムラタ様 HP
https://muratanet.jp/



電建 Photo studio



10.28　協力業者様との交流会を実施



10.17
お仕事体験フェスティバルに参加しました！

電気工事士奮闘記



工事部
松本 雄大

緊急対応での気づき

先日、小学校で高圧ケーブルのパンク（絶縁破壊）が発生し、緊急でケーブルの交換工事を行いました。学校という、子どもたちが日々過ごす大切な場所でのトラブルだったため、一日も早く電気を復旧させる必要がありました。

工事では、急な依頼にもかかわらず、迅速に駆けつけて対応してくださった職人さんをはじめ、緊急でケーブルやPAS（高圧交流負荷開閉器）を手配し、引き取りに走り回ってくれた社内の方々、そして材料を準備してくださった材料屋さんなど、多くの方々に支えていただきました。

電気工事は、現場で作業する職人さんだけでなく、必要な材料を手配する人、工程を調整する人など、それぞれの役割が繋がることで、お客様の困りごとを解決することができます。

今回の経験を通じて、普段から多くの方々に支えられて仕事ができていることを改めて実感しました。協力してくださった皆様への感謝を忘れず、これからも困ったときに頼っていただける電気工事会社を目指していきます。



今月のちょっと一言



総務経理部
佐藤 陽香

自分と向き合い、これまでの成長を振り返る機会

先日、経営マネジメントを学ぶ会にて「少数超精鋭の社員づくり」をテーマに、電建の取組みについて一社員として他社の経営者や社員の皆様にお話しする機会をいただきました。

きっかけは、8月末に開催した経営指針発表会です。講師としてお越しくださった先生が電建社員の姿を評価してくださり、今回の機会につながりました。

当日は、入社当時から現在までの仕事観の変化や、その背景にあった会社の取組み、そして将来どのような自分でありたいかについてお話させていただきました。

電建で過ごした9年間を振り返ると、幅広い業務や貴重な機会に恵まれてきたことを改めて実感しました。また、これまでの人生を振り返ると、決して楽しい事ばかりではなく、人生の岐路で辛く悲しい経験をした事もありました。しかし、そうした出来事も今の自分につながる大切なきっかけだったのだと、改めて感じています。

今回、自分自身と深く向き合う機会をいただけたことに感謝し、これまでの経験を糧に、これからも学びと成長を重ねていきたいと思います。



笑顔盛り



総務経理部
中島 依里

会計学講座

今年の7月から、実践経営者道場〈大和〉で実施されている会計学講座に参加させていただいております。

昨年度は社長と総務経理部の先輩が参加されていたのですが、今年はお声がけいただき、私も学ぶ機会をいただいております。

毎回、どのようなことを学べるのだろうと意気揚々と参加しておりますが、一般的な会計学講座とは全く違うことに驚かされます。まず、電卓を使うことはありません！数字そのものを計算するのではなく、数字との向き合い方や、稲盛会計原則について学んでいます。中でも「数字は目標にもなるが、凶器にもなる」という言葉が特に印象に残っています。

新しいことを学んでいると感じる一方で、これまで電建で社長や諸先輩方から教えていただいたことの「答え合わせ」をしているようにも感じます。それほど、弊社の社風や会計に対する考え方が、稲盛会計の考え方に通じているのだと実感しています。

数字の向こう側にある意味を考えながら、経理として、より良い仕事ができるよう努めてまいります。

